



# 第 13 回

# テニユアトラック教員支援セミナー

日時：2013年12月9日(月) 18:00～19:00

場所：臨床講堂 第二

演者：川内健史 先生

所属：科学技術振興機構さきがけ

慶應義塾大学医学部生理学教室 特任講師

2013  
12/9(月)  
開催

タイトル：大脳皮質形成におけるエンドサイトーシス経路の  
「使い分け」とその意義

要旨：ほ乳類の大脳皮質形成過程において、脳室近辺に存在する神経前駆細胞から誕生した神経細胞は、脳の表層に向けて多段階の移動を行う。神経細胞はこの移動過程で軸索や樹状突起を形成し、また、この神経細胞移動が障害されると多くの脳疾患が引き起こされることから、多段階の神経細胞移動は、脳が正しく機能するために重要な発生段階であると言える。これまでに我々は、簡便に個体への遺伝子導入を行える子宮内エレクトロポレーション法などを用いて、移動神経細胞の複雑な形態変化を制御するいくつかの細胞骨格関連因子とその上流経路を報告してきた(EMBO J 2003; Nature Cell Biol 2006)。さらに最近の我々の研究により、細胞接着分子およびその制御に関わるエンドサイトーシス経路が、神経細胞移動の段階に応じて、巧みに使い分けられていることが明らかとなりつつある(Neuron 2010; Neuron 2012; 未発表データ)。本セミナーでは、多段階の神経細胞移動におけるエンドサイトーシス経路の「使い分け」機構を中心に、大脳皮質形成におけるメンブレントラフィック経路の生理的役割について紹介したい。

## ■お問い合わせ

統合医科学研究所 古川 徹(内線29675) furukawa.toru@twmu.ac.jp

総合研究所 竹宮孝子(内線30425) takakot@lab.twmu.ac.jp